

公立大学法人前橋工科大学
平成26年度業務実績に関する
評価報告書

平成27年10月

前橋市公立大学法人評価委員会

目次

1	評価の考え方	1
	(1) 基本的な考え方	
	(2) 評価方法	
2	全体評価	2
	(1) 総括	
	(2) 今後に対する意見	
3	項目別評価	4
	(1) 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組	
	(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組	
	(3) 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組	
	(4) 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための取組	
	(5) その他業務運営に関する重要な目標を達成するための取組	
	委員名簿	8

1 評価の考え方

前橋市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、公立大学法人前橋工科大学の平成26年度の業務実績について、以下の考え方により評価を実施した。

(1) 基本的な考え方

- ・ 中期目標の達成に向けた、法人の中期計画及び年度計画の実施状況を確認する。
- ・ 法人の特筆すべき取組や成果を積極的に評価する。
- ・ 評価を通じて、法人の管理運営、大学の教育研究の質的向上を図る。
- ・ 法人の管理運営、大学の教育研究などの実績及びそれに対する評価は広く関係者に公表する。

(2) 評価方法

・ 評価の進め方

年度評価は、法人から提出された「平成26年度業務実績に関する報告書」（以下「報告書」という。）を踏まえ、その自己点検及び自己評価の内容が適切かどうかという視点で「全体評価」及び「項目別評価」を行う。

・ 「全体評価」

平成26年度の法人の業務実績全体について総合的な評価を行う。

・ 「項目別評価」

中期目標における目標区分ごとに業務の実施状況を確認し、次の4段階の評価基準により評価を行うとともに、特筆すべき点や改善を要する点についての講評を付す。

(評価基準)

評点	定義
A	中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
B	中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。
C	中期計画の達成に向けてはやや遅れた進捗状況にある。
D	中期計画の達成に向けては進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

【参考：法人による自己評価の評価基準】

評点	定義
A	年度計画を上回って実施している。
B	年度計画を計画どおりに実施している。
C	年度計画をやや遅れて実施している。
D	年度計画を実施していない。

2 全体評価

(1) 総括

平成26年度の業務の全体的な実施状況は、業務実績報告書において、年度計画の全160項目のうちの約97%の156項目が「A評価：年度計画を上回って実施している」、又は「B評価：年度計画を計画どおりに実施している」とされた。法人評価委員会においても、概ねこの評価に準じ、全体的には、中期目標の達成に向けて着実に取組が進められていると評価する。また、昨年度の評価報告書において、「年度計画の実施状況が中期計画に対してどの程度進捗しているか」を示すなど、市民や評価者にとって理解しやすい情報開示が必要であるという指摘をしたが、業務実績に関する報告書の概要版の作成、中期目標に対する取組状況のまとめ、業務実績に関する自己評価の判断根拠の提示などが行われており、報告書の内容はかなり改善された。一方で、業務実績の項目別自己評価においては、十分な理由を明示しないままAあるいはBと判断した項目が少なからずある。特にA評価をする場合は、その判断根拠を第三者に十分理解できるように示さなければならない。評価基準に基づく厳格な自己評価は「大学評価の基本」である。

業務実績に関する報告書中の「特筆すべき成果」では、「積極的にアピールすべき当該年度の顕著な活動実績」を中心に記載すべきと考える。この観点から本年度の内容はアピール度が低く、例えば、語学（英語）教育の充実、産学官連携・共同研究の実績、富岡世界遺産会議等を含む地域貢献活動、図書館業務の全面的外部委託などの項目が見落とされている。いずれも、大学が努力し、また独自性が見受けられる重要な内容である。「特筆すべき成果」は、大学の魅力発信、あるいはブランド力の向上と密接に関連しており、その発掘・発信には大学全体を俯瞰できる管理組織（あるいは者）が積極的に関与するなどして、活性化することが望ましい。

結びに、法人化後3年目を迎え、中期計画期間の中間地点に達した。法人化後の2年間は、大学運営を軌道に乗せる期間であったが、今後はさらに中期目標が達成できるよう、理事長及び学長のリーダーシップの下、着実な取組を継続していくとともに、個別の課題に対する改善・解決の成果の集積を大学のレベル向上に結び付けるように努力していくことが望まれる。また、大学の取組をより分かりやすく、さらに積極的に情報発信していくことを期待して、全体評価の総括とする。

(2) 今後に対する意見

業務実績に関する自己評価において、市民視点での分かりやすさの観点から、A評価をする場合を中心に、何が具体的に年度計画を上回ったかなど、分かりやすい理由・判断根拠を明示するとともに、検討、検証した項目については、結果やその考え方などをまとめる必要がある。そして、大学のブランド力向上につながる取組については、その内容を積極的かつ具体的にアピールするとともに、大学の魅力の発掘や創造に努めていくことが望まれる。

3 項目別評価

(1) 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	<p>法人の自己評価の項目全体では、101項目のうち99項目がA評価又はB評価とされた。評価委員会の評価もこれに準じ、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。</p> <p>特に、語学教育・国際交流の充実、大学講座等による地域社会への貢献などで教育研究の質向上が図られており、継続的な努力により、その成果が期待される。</p>	<p>B</p> <p>(概ね順調)</p>
-------------	---	-------------------------------

法人評価

年度	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	項目数	構成比	項目数
H26	101	22	21.8%	77	76.2%	2	2.0%	0	0.0%
H25	107	14	13.1%	79	73.8%	14	13.1%	0	0.0%

■特筆すべき事項及び評価できる事項

学生の語学教育の充実や地域社会への貢献など、教育研究等の質の向上を目指した中期計画の達成に向け、下記の具体的事項において積極的な取組を進めた。

① 教育に関する目標

- ・語学（英語）教育の充実

語学（英語）科目の開講数を増加したことに加え、積極的な TOEIC の受験を推奨し、受験料の一部を後援会の支援により一部補助を行うことで、語学（英語）教育の充実を図った。

② 研究に関する目標

- ・産学官連携による学内外との組織的研究

地域企業と共同研究を実施し、特許出願、実用化等の実績を重ねている。

③ 公開講座等による地域貢献

大学機能の市民開放を進めるため、多数の公開講座等を開催した。特に、上毛新聞社との共催により富岡世界遺産会議を実施し、約300人の参加者が富岡製糸場近辺の将来像や近代化遺産を生かしたまちづくりについて考える機会を提供した。

④ 国際交流に関する目標

・海外留学支援

優秀学生の海外留学促進について同窓会・後援会と協議した。その結果、後援会による財政的支援が得られ、3人の学生を留学させた。

■ 今後に期待する事項

下記の事項に関しては、年度計画の着実な実行及び中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

① 大学院教育に関する目標

・ティーチング・アシスタント制度の充実

年度計画に沿って大学院生による講義を実施し、指導力の養成及び研究能力の向上を図ることを期待する。

② 国際交流に関する目標

・吉林建筑工程学院城建学院との交流

吉林建筑工程学院城建学院（中国）との間での共同研究は、部分的には進んでいるが、一方、学生交流については具体的な進展が見えない状況にある。年度計画に沿った取組を期待したい。

(2) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	法人の自己評価の項目全体では、15項目全てがA評価又はB評価とされた。評価委員会としての評価もこれに準じ、全体的には計画どおりの進捗状況にあると評価できる。 また、委託が可能な事業について検討し、一部実施するなど、法人化後の業務運営では効率化が進展している。	B (概ね順調)
-------------	--	--------------------

法人評価

年度	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	項目数	構成比	項目数
H26	15	1	6.7%	14	93.3%	0	0.0%	0	0.0%
H25	16	0	0.0%	14	87.5%	1	6.3%	1	6.3%

(3) 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	<p>法人の自己評価の項目全体では、11項目全てがA評価又はB評価とされた。</p> <p>評価委員会としての評価もこれに準じ、全体的には計画どおりの進捗状況にあると評価できる。</p> <p>図書館業務の委託化など業務の効率化による財務改善が見込まれており、今後のサービスの向上にも期待ができる。</p>	<p>B</p> <p>(概ね順調)</p>
-------------	---	-------------------------------

法人評価

年度	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	項目数	構成比	項目数
H26	11	2	18.2%	9	81.8%	0	0.0%	0	0.0%
H25	11	0	0.0%	11	100.0%	0	0.0%	0	0.0%

■特筆すべき事項及び評価できる事項

① 業務の外部委託化による財務改善

図書館業務の全面委託化決定により、財務改善が見込まれている。これが財務改善のみならず、学生サービス、研究サービス及び市民サービス等の向上に繋がることが期待される。

(4) 自己点検・評価及び情報公開に関する目標を達成するための取組

評価委員会 評価	<p>法人の自己評価の項目全体では、5項目全てがB評価とされた。評価委員会としての評価もこれに準じ、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。</p> <p>中期目標を実現するために、必要に応じて年度計画の見直しを行うなどして、PDCAサイクルがより効果的に回るような運営を進めて欲しい。</p>	<p>B</p> <p>(概ね順調)</p>
-------------	---	-------------------------------

法人評価

年度	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	項目数	構成比	項目数
H26	5	0	0.0%	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
H25	4	0	0.0%	3	75.0%	1	25.0%	0	0.0%

(5) その他業務運営に関する重要な目標を達成するための取組

評価委員会 評価	<p>法人の自己評価の項目全体では、28項目のうち26項目がA評価又はB評価とされた。評価委員会の評価もこれに準じ、全体的には概ね順調な進捗状況にあると評価できる。</p> <p>業務実績報告書では顕著な実績が少なからず見受けられるが、積極的なアピールが不足している。これは大学のブランド力の強化に直結することを意識し、より積極的に情報発信をして欲しい。</p>	<p>B</p> <p>(概ね順調)</p>
-------------	---	-------------------------------

法人評価

年度	全体 項目 数	A		B		C		D	
		項目数	構成比	項目数	構成比	項目数	項目数	構成比	項目数
H26	28	1	3.6%	25	89.3%	2	7.1%	0	0.0%
H25	33	0	0.0%	29	87.9%	4	12.1%	0	0.0%

■ 今後に期待する事項

下記の事項に関しては、年度計画の着実な実行及び中期計画の達成に向け、さらなる取組を期待したい。

① 大学院における教育及び研究の充実

・ 博士課程の充実

社会人が履修しやすい制度である長期履修制度の構築が進んでいないことや、大学院説明会にて社会人の参加者が得られない等の実態があり、入学定員充足率が目標を達成していない状況である。定員充足率の目標達成に向けて、より戦略的な改善策を検討していく必要がある。

前橋市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(五十音順、敬称略)

	氏名	職業、役職等	備考
1	えびさわ きょういち 鮎澤 恭一	関東精機株式会社取締役社長 前橋商工会議所常議員	
2	こじま ひでふさ 小島 秀薫	池下工業株式会社代表取締役 前橋商工会議所常議員	
3	さわぐち としゆき 澤口 俊行	税理士 関東信越税理士会前橋支部	
4	しらい ひろゆき 白井 紘行	元群馬大学理事・副学長 前橋工科大学外部評価委員会委員長	委員長
5	とみやま よしのり 富山 慶典	群馬大学社会情報学部長	
6	ひらた ゆみ 平田 郁美	共愛学園前橋国際大学学長	

任期：平成26年4月1日から平成28年3月31日まで